◆　目黒区　◆

中小企業の景況

平成 25 年度第 4･四半期
（平成 26 年 1～3 月）

目 黒 区　産 業 経 済 部　産 業 経 済 ・ 消 費 生 活 課

目　　次

１．都内中小企業の景況　1
２．目黒区内中小企業の景況（平成 26 年 1～3 月期）　2
　（１）今期の特徴点　2
　（２）今期の景況と来期の見通し　5
　　製造業　5
　　卸売業　9
　　小売業　12
　　サービス業　15
　　建設業　18
　（３）調査員のコメント　21
３．日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 26 年 3 月）　24
４．特別調査「消費税率引上げの影響と賃金・価格改定の動向」について　27
５．中小企業景況調査　比較表・転記表　29

調 査 の 概 要

１．調査時期　　平成 26 年 1 月～3 月期（四半期毎実施）

２．調査方法　　面接聴取調査

３．調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製　造　業	101	100
卸　売　業	29	28
小　売　業	56	55
サ ー ビ ス 業	60	60
建　設　業	45	43
合　計	291	286

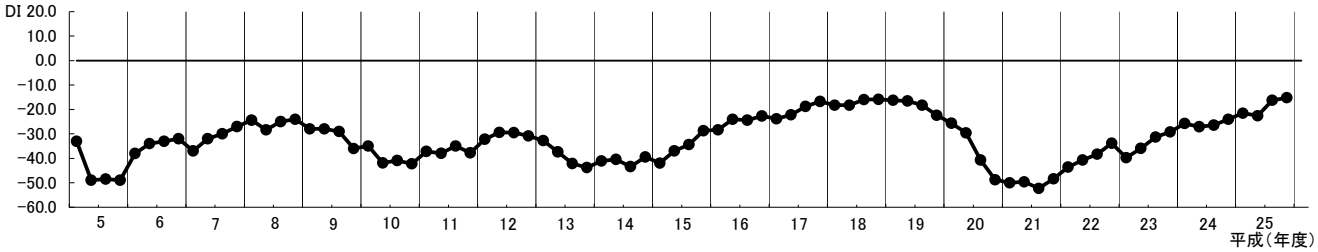
調査実施機関　一般社団法人東京都信用金庫協会

分析実施機関　株式会社帝国データバンク

１．都内中小企業の景況（平成 26 年 1～3 月期）

（社団法人　東京都信用金庫協会調べ）

改善傾向に一服
～来期は全業種で業況感が落込むと予想～



業況判断 DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は－15.2（前期は－16.3）と前期に比べ 1.1 ポイント改善した。業種別に見ると、卸売業でやや明るさがみえ、建設業で幾分良好感が強まった。

来期は全業種で業況感が落込むと予想している。

	前　期	今　期	増　減	来期予想	今期との増減
製　造　業	△ 17.6	△ 16.8	0.8	△ 19.8	△ 3.0
卸　売　業	△ 16.4	△ 12.9	3.5	△ 17.9	△ 5.0
小　売　業	△ 30.0	△ 30.0	0.0	△ 33.5	△ 3.5
サービス業	△ 13.9	△ 13.3	0.6	△ 14.3	△ 1.0
建　設　業	3.5	8.7	5.2	3.6	△ 5.1
不動産業	△ 0.4	△ 5.0	△ 4.6	△ 7.8	△ 2.8
総　合	△ 16.3	△ 15.2	1.1	△ 18.4	△ 3.2

＜製造業＞

業況は前期同様の厳しさが続いている。売上額・収益は多少減少に歯止めがかかり、受注残は前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格は前期同様の低下基調で推移し、原材料価格は前期並の上昇が続いている。

業種別に見ると、「建設用金属」「プラスチック」「食料品」は大きく上向き、「プレス・メッキ」「木材・家具」「金属製品」は幾分厳しさが和らいだ。一方、「皮革関連」はかなり低迷し、「化学工業」「一般機械」「精密機械」「ゴム製品」「繊維・衣服」は幾分低調感を強めた。

来期の業況は悪化傾向が強まると予想している。売上額・受注残・収益はともに減少幅・減益幅が拡大するものとみている。

＜卸売業＞

業況は、水面下ながら若干上向いた。売上額・収益はともに多少改善した。価格面では、販売価格はほぼ横這いで推移し、仕入価格は前期並の上昇が続いた。

業種別では、水面下ながら「建築材料」「化学製品」「鉱物・金属材料」は大幅に明るさがみえた。一方、「機械器具」は前期同様の厳しさが続き、「繊維・衣服」「食料品・飲食料品」は若干悪化幅が拡大した。

来期の業況は、低迷すると予想している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が拡大するものとみている。

＜小売業＞

業況は、前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益はともに幾分減少幅・減益幅が縮小した。価格面では、販売価格は変動なく推移し、仕入価格は前期並の上昇が続いた。

業種別では、「医薬品・化粧品」が水面下ながら大きく厳しさが和らぎ、「自転車・自動車」「書籍・文房具」はわずかに上向いた。一方、「飲食店」「繊維・衣服・身の回り品」はやや悪化幅が拡大した。

来期の業況は、深刻さを増すと予想している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が拡大するものとみている。

＜サービス業＞

業況感は前期並の悪化幅で推移した。売上額はわずかに持ち直し、収益は前期並の減益幅であった。価格面では、料金価格はほぼ横這いで推移し、材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「情報サービス・調査・広告」は多少好調感が後退し、「自動車整備・駐車場」は幾分悪化幅が拡大した。

来期の業況は今期同様の厳しさが続くと予想している。売上額・収益はともに今期並の減少幅・減益幅が続くとみている。

＜建設業＞

業況はやや前期を上回った。売上額・受注残はわずかに増加幅が拡大し、施工高はかなり堅調に推移した。収益は大きく好転した。価格面では、請負価格は幾分上昇傾向を強め、材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「総合工事」は大幅に前期を上回り、「職別工事」「設備工事」はやや強含んだ。

来期の業況は増勢が後退すると予想している。受注残・売上額・施工高は大きく増加幅が縮小し、収益は増加から減少に転じるとみている。

＜不動産業＞

業況は幾分低調感を強めた。売上額・収益ともに減少幅・減益幅がわずかに拡大した。価格面では、販売価格はやや上昇が弱まり、仕入価格は前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「建売・土地売買」は好調感が大幅に後退した。「不動産代理・仲介」はやや低調感を強めた。

来期の業況は、悪化傾向が強まるものと予想している。売上額・収益ともに低迷するものとみている。

[注]

○D.I（ディフュージョンインデックス Diffusion Index の略）

D.I（ディーアイ）は増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○（季調済）D.I

季調済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去５年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種（例えば小売業）ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。